

救急処置演習 A-V		講義	教授 千明 政好 講師 田口 弘茂
科目カテゴリー	救急救命士コースの専門分野科目	科目ナンバリング	13391403

1. 授業のねらい・概要

救急救命士に必要とされた救急救命処置(特定行為)の理論と基本的実技に関して、平成 26 年 4 月より新しく追加された各種ショックやコンパートメント症候群に対する心肺機能停止前輸液、血糖測定、ブドウ糖溶液投与のプロトコルを、シミュレーション演習を通じて理解する。

また、インフォームドコンセントの在り方、コミュニケーションの在り方等についても実践するように進める。

2. 授業の進め方

救急救命処置に関する知識と技術を向上させるために、シミュレーション型実技訓練に重点を置いて演習を展開する。本演習に必要な知識及び技術は講義を含め実施していく。

3. 授業計画

1. ガイダンス・心肺停止に陥る原因疾患の鑑別・心原性・除細動プロトコルについて(座学)	16. ブドウ糖投与プロトコルについて(座学)
2. 心原性心肺停止傷病者に対するシミュレーション訓練(演習)	17. 意識障害の傷病者に対するシミュレーション訓練(演習)
3. 心原性心肺停止傷病者に対するシミュレーション訓練(演習)	18. 意識障害の傷病者に対するシミュレーション訓練(演習)
4. 救急症候学①意識障害(座学)	19. 救急症候学④呼吸困難・失神(座学)
5. 確認試験(心原性心肺停止)	20. 確認試験(意識障害の鑑別)
6. 薬剤投与プロトコルについて(座学)	21. 心肺機能停止前の静脈路確保及び輸液・意識の在る傷病者に対するリスクマネジメント(座学)
7. 非心原性心肺停止傷病者に対するシミュレーション訓練(演習)	22. 心肺機能停止前の静脈路確保及び輸液シミュレーション訓練(内・外因性傷病者)(演習)
8. 非心原性心肺停止傷病者に対するシミュレーション訓練(演習)	23. 心肺機能停止前の静脈路確保及び輸液シミュレーション訓練(内・外因性傷病者)(演習)
9. 救急症候学②頭痛・痙攣(座学)	24. 救急症候学⑤胸痛(座学)
10. 確認試験(心原性心停止薬剤投与)	25. 確認試験(心肺機能停止前の静脈路確保及び輸液)
11. 救急救命処置拡大の変遷と新たな拡大処置・血糖測定とブドウ糖投与(座学)	26. ショックの病態生理(座学)
12. 血糖測定方法(演習)	27. 心肺機能停止前の静脈路確保及び輸液シミュレーション訓練(外傷傷病者)(演習)
13. 静脈路確保とブドウ糖溶液の投与(演習)	28. 心肺機能停止前の静脈路確保及び輸液シミュレーション訓練(外傷傷病者)(演習)
14. 救急症候学③運動麻痺・めまい(座学)	29. 救急症候学⑥腹痛・腰痛・背部痛(座学)
15. 確認試験(血糖測定とブドウ糖投与)	30. 確認試験(ショックの病態生理)

4. 準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

カリキュラムに応じた予習・復習内容(課題レポート、小テストの見直し、ノート整理)を適宜提示する。これには週 3 時間以上を要する。手技については、次の授業までに訓練し修得する。これには相当数の時間を要する。

5. 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

1) 小テスト

誤った問題についてはレポートにまとめ、次の授業時に提出しフィードバックを行う。

2) 課題

- 教員は学生が提出した課題を評価し、フィードバックを行う。
- 課題で重要な部分は、次の授業始めにその内容を口頭で説明する。

6. 授業における学修の到達目標

- 救急救命士に必要とされた救急救命処置(特定行為)の理論と基本的実技を理解する。
- 各種ショックやコンパートメント症候群に対する心肺機能停止前輸液判断をシミュレーションで実施し理解を図る。
- 低血糖傷病者に対してブドウ糖投与プロトコルを、シミュレーション演習を通じて理解する。
- 意識障害やショックの適切な判断と処置の実践ができるようにする。
- 心肺機能停止前の傷病者に静脈路確保や薬剤投与を行うためにインフォームドコンセントを理解する。

7. 成績評価の方法・基準

成績評価の基準として、処置により病態の改善を予見するなど適切な思考判断を下し得る知力、技術の獲得ができたかを以下の方法で評価する。

1) 成績評価項目

- a) 事前の授業の準備と理解の評価
- b) 授業態度・主体的な授業への取り組みと講義の理解度の評価
- c) 授業後の内容の整理と課題の提出の評価
- d) 講義内容の理解度を試験で検討

2) 成績評価の方法

- a) 授業内容の整理・提出 (20%)
 - イ) 事前の授業の準備と理解
 - ロ) 授業態度・主体的な授業への取り組み姿勢
- b) 実技試験
 - イ) 受験資格として 80%以上の出席かつ、全ての課題が期限までに提出され合格している事が必要である。
 - ロ) 可否を判定する。不合格のまま単位が出されることはない。
 - ハ) 追試験の該当・手続きについては履修要項を参照し（但し追試験料は不要）、該当しない欠席については試験放棄とみなす。
 - ニ) 再試験は必要に応じて1回のみ実施する（但し再試験料は不要）。
- c) 筆記試験 (80%)
 - イ) 受験資格として 80%以上の出席かつ、全ての課題が期限までに提出され合格している事が必要である。
 - ロ) 中間試験は必要に応じて実施する。
 - ハ) 中間試験・期末試験結果それぞれの点数の 60%以上を合格とする。
 - ニ) 追試験の該当・手続きについては履修要項を参照し、該当しない欠席については試験放棄とみなす。
 - ホ) 再試験は、中間試験・期末試験それぞれ必要に応じて1回のみ実施し、60%以上を合格とする。
 - ヘ) 再試験の手続きについては履修要項を参照。

8. テキスト・参考文献

改訂第 10 版 救急救命士標準テキスト(へるす出版)
改訂 6 版 救急蘇生法の指針 2020 市民用・解説編(へるす出版)
改訂第 2 版補訂版 JPTEC ガイドブック (へるす出版)
PEMEC ガイドブック 2017 (へるす出版)
適宜指定するテキスト

9. 受講上の留意事項

- 1) 医学系授業の基礎となり、医療従事者であれば常に考え、身につけなければならない学習内容である。
- 2) 救急救命士としての資質を習得するために必要な団体行動、集団生活における時間管理・規律、礼儀、倫理感を養う。
- 3) 本科目は原則として、救急処置演習 A-Ⅲ、救急車内活動演習において、C 評価以上を得た者を対象とし、これに該当しない者は受講を認めない。
- 4) 以下に該当する場合は、退出を命じ当日授業を欠席扱いとする。
 - a) 実習に相応しい身だしなみ（アイロンがけした制服、黒色または紺色の T シャツ、黒色または紺色の靴下、汚れていない内履、及び名札の着用）が履行できない場合。
 - b) 長い爪、髭、過度に明るく染色した頭髮、アクセサリーの着用等、社会通念上医療従事者として救急活動に従事する上で、相応しくないと認められる場合。
 - c) 使用するテキストや資料、個人資器材（腕時計、聴診器、ペンライト、ゴーグル）、その他授業に持参するよう指示した物品を忘れた場合。
 - d) スマートフォンなど音の出る電子機器については、電源を切ることを原則とし、これに従わない場合。
 - e) 居眠りや落ち着きのない言動等、授業の円滑な進行を妨げると教員が判断した場合。
 - f) 授業開始 10 分前までに事前連絡がない遅刻、及び 30 分以上の遅刻。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当有無

該当する。本授業は、公的機関等における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。